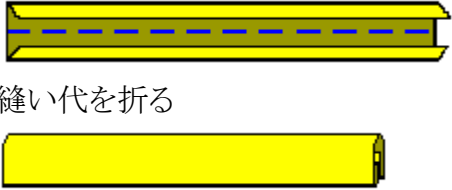
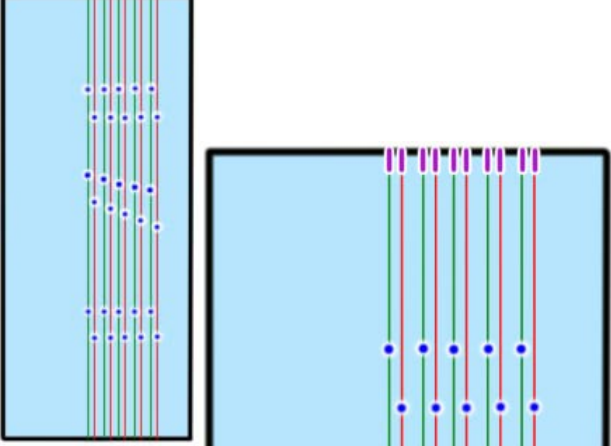
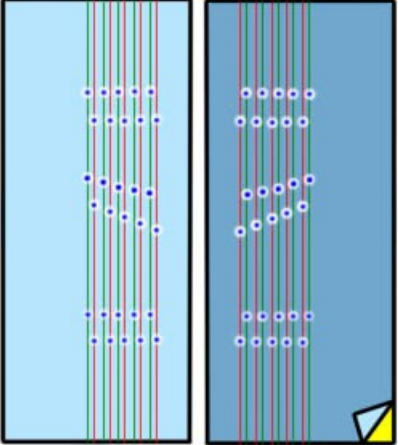
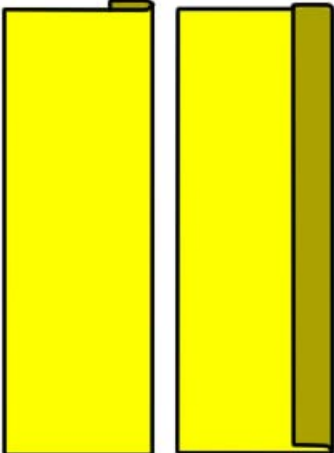
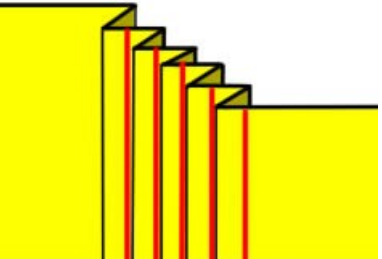
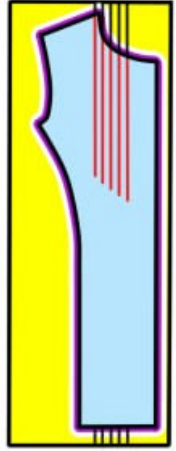
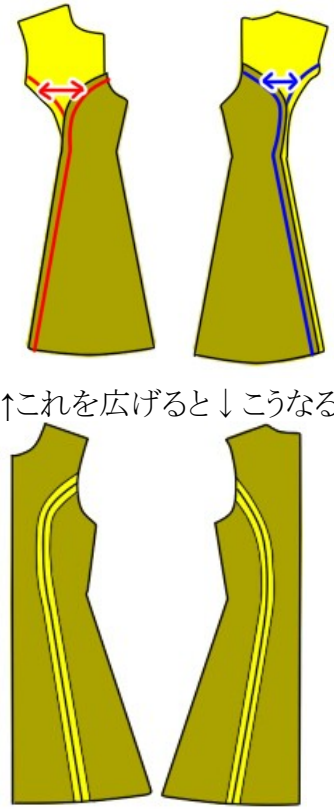
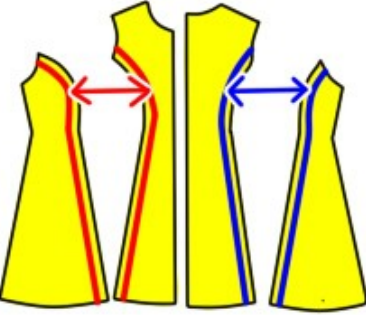

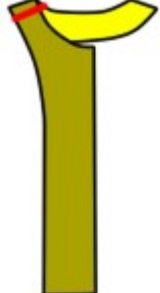
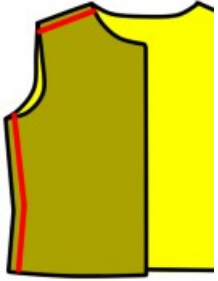
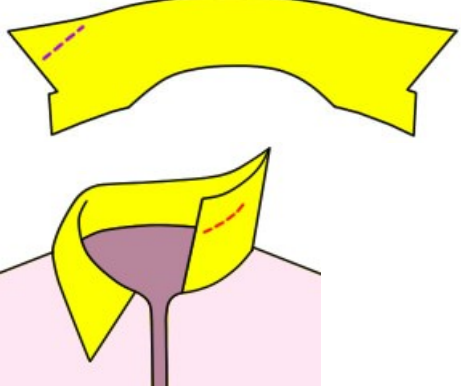
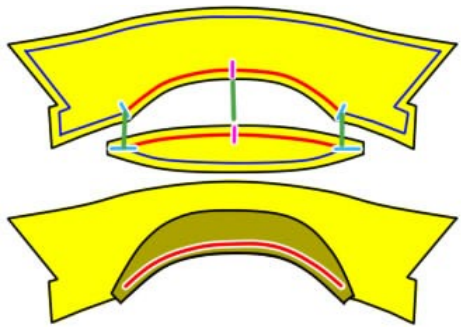

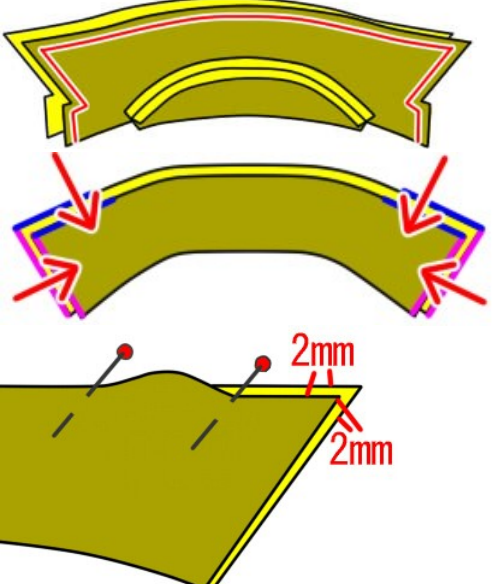
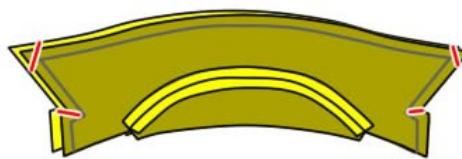

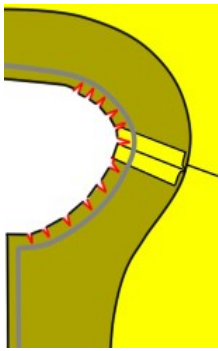
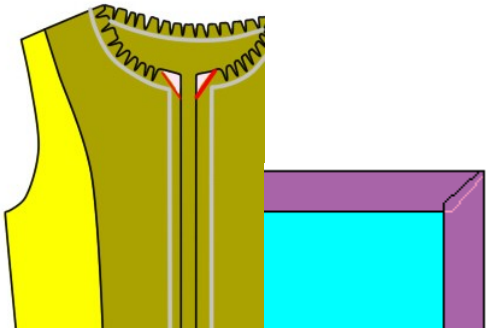



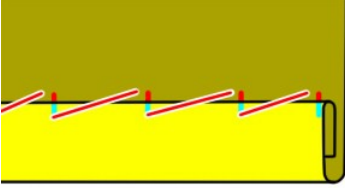
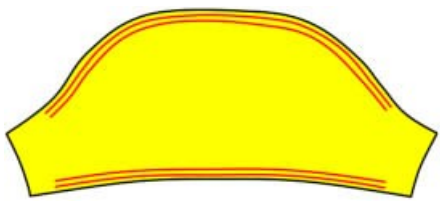



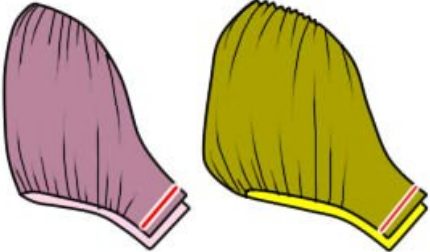
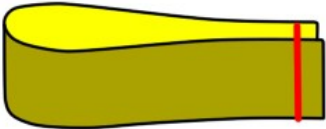
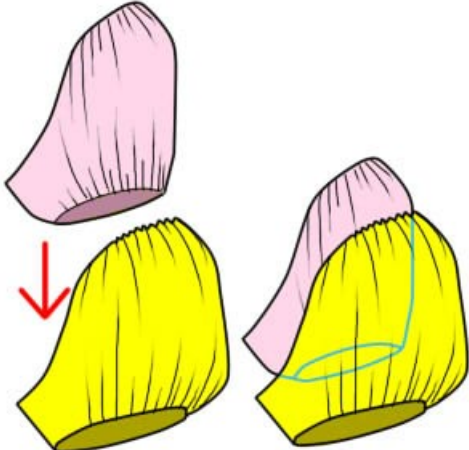

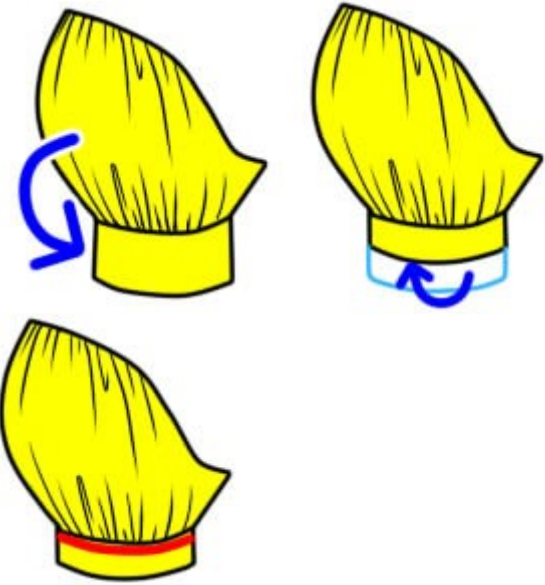
<p>■表 ■裏</p> <p>■接着芯</p>	<p>裁断した全てのパーツの端を<b>ほつれ止め</b>をする。 見返しとえりの裏等に接着芯を付ける わしくは<b>縫う前</b>の<b>下準備</b>を参照</p>
 <p>縫い代を折る</p> <p>上の図の点線のところで半分に折る。</p>	<p>カフスをアイロンで図のように折り目をつけてください。</p>
	<p>ピンタック用の前身頃に印用の穴を開ける。 折と谷折りの穴の位置をずらしておく間違えにくいですよ。 紙を生地の表に重ね印を付けて、切る。 ピンタックの上下ははさみで切込みを入れると早い 印の数は持っている物差しの長さで変えてください。1 m 位の長い物差しをお持ちであれば、上下だけでもかまわない</p>
	<p>左は表を上にした生地の上に型紙を重ね印を付ける 右はヒダの向きが逆になるので、型紙を裏返して印を付けてください。</p>
	<p>アイロンで山折り谷折りしてください</p>

	<p>完成どおりに折り目をつけて、山折り 5 mm位の所を縫ってください。</p>
	<p>ピンタックを縫ったものの上に前中心の裁断用の型紙を重ねてください。</p> <p>型紙のピンタックの目安ラインと生地のパインタックを合わせるように重ね、重石を置いて固定して印をつけて切ってください。</p>
 <p>↑これを広げると↓こうなる。</p>	 <p>前身頃のと前身頃脇を内側が表になるように重ねてください。(これを洋裁用語で中表といいます)</p> <p>赤い線のところを縫ってください。</p> <p>後身頃と後身頃脇は青い所を縫ってください。</p> <p>縫い終わったら縫い代をアイロンで左右に折ってください。</p>  <p>↑縫い代右に広げる事を割るといいます</p>
	<p>見返しの両肩を縫う (分かりやすいように片方だけ縫い付けている図です) 実際は両方縫ってくださいね。</p>

	<p>表が内側になるようににあわせ、身頃の肩と脇を縫う</p>
	<p>えりは裏表が分かりにくくなりやすいので裏に隠れる方のえりに仕付け糸で2~3 cm縫ってください。 玉止めは不要です。</p> <p>これをしておくと後で楽です</p>
	<p>えりを縫ってください。 えりに台えりを裏を上にして重ねて縫ってください。切込みなどの印をあわせて縫ってくださいね</p>  <p>縫い代は上下に折って下さい</p>
	<p>2枚のえりを内側が表になるように重ねて縫ってください。 のとき「表に見えるほうのえり」(印の付いていない方)を2~3 mm内側にずらしてまち針をさす。</p> <p>しわが入らないように、目打ちなどでダブ付いた分を押しこむようにして縫ってください。</p>  <p>角を縫い目から2mmの所を切り落とし、内向きの角は糸を切らないように切込みを入れてください。</p>
 <p>図1</p>	<p>えりのゆるみを作る理由。 このタイプのえりは図のように表に折り返すためのカーブと首にそったカーブ(図1)がありますね？</p>

 <p>図 2</p>	 <p>外側のカーブと内側のカーブでは外側のほうが長く、内側が短くなります。          なのでその分を補うために2~3mm表になるほう(外側に折り返すほう)を内側に入れ込んで、長さを調節する必要があります。          これをしないと図2の右のえりのように引きつってえりの先がぴよこっとあがってしまうので注意が必要です。</p>
	<p>表返して端から5mmの所を縫ってください。</p>
	<p>印がある方へえりに付ける部分の縫い代を折る。          この時えりがずれます。          このずれが折り返しの緩みになります</p>
	<p>上で出来たずれを、そのままに端から0.5cmの所を縫う</p>
	<p>印を付けていない方のえりを上にして身頃に重ねてください。          端から5mmの所を縫ってください。          えりの端は、身頃の印に合わせてください。          ここからは<a href="#">スタンドカラーの縫い方動画</a>の縫い方が参考になると思います</p>
	<p>見返しを裏を上にして重ね縫ってください。</p>

	<p>えりの縫い代のカーブの所は切込みを忘れずに。</p> <p>切込みを入れず見返しを裏がえすと引きつった感じになります。 (試しに切り込みをいれずに裏返してみてください、そうすると意味が分かると思います)</p> <p>縫い目を切らないように気をつけてね。</p>
	<p>縫い代の角を切り落とします 角を折りたたむようにして表返してください。</p>  <p>すその角も切ってください。</p>
	<p>えりをよけて端から3~5mmの所を縫ってください。</p>
	<p>アイロンですその縫い代を折る。 縫い代の幅より0.3~0.5mm短めの所を縫ってください。 裏の見返しの端をまつっておくとより綺麗に裏の始末が出来ます。</p>  <p>まつりぬい。</p> <p>表の繊維を1~2本すくい、折り返した縫い代を縫う。 0.5~1cmおきに同じように表の繊維を救うの繰り返し</p>
	 <p>パフ部分と裏地のそでの上下にギャザーを寄せてください</p>

	<p>そでを二つ折りにして縫ってください。</p>
	<p>カフスも脇を縫ってください。</p>
	<p>表にひっくり返してパフの中に裏地を入れてください</p>
	<p>そで口のギャザーを縮めてカフスと同じ長さになるように調整してください。      引っ張るのは下糸を引っ張ってください。      上糸を引っ張ると糸がしまつてギャザーを寄せにくくなります。      表が見えるようにパフと、裏地を重ねたまま一緒に裏が見えるようにカフスを重ね縫ってください。</p>
	<p>カフスをアイロンでつけた折り目どおりに折り返してください。      そで口とカフスの境目から 5mm の所をミシンで縫ってください。      慣れていない場合はしつけ糸で境目から 2~3 mm の所を手縫いしてから、ミシンをかけるといいよ。      お好みで袖口にレースやフリルをつけて下さい。</p>

	 <p>裏が見える身頃の中に、表にしたそでを入れてそで口を縫ってください。 最初に肩と脇の縫い代とそでの印をピンでとめてください。 ギャザーよせした糸を引っ張って、袖がそで口と同じ長さになるように調節して、パフと裏地を身頃と縫ってください</p>
	 <p>前合せにボタンをつけて完成です。 ボタンの穴のあけ方はミシンによって違いますので、ミシンの説明書を参照してください</p>

#### この型紙に必要な道具

表生地。本体の生地です TCブロードやシーチングなどがよく使われますね。

接着芯 えりや見返しに貼る補強の布です。アイロンでくっつけます。

これをつけないとボタンのところが破れたりえりがクタクタになります

ボタン お好みでどうぞ。選択すると色落ちするものもあるので注意。

#### おすすめの生地

##### T/Cブロード

綿とポリエステル混紡素材で、普通のブロードに比べ少しだけ高いのですが、しわになりにくく縫いやすい生地なので、毎日のお洗濯のあとのお手入れがラクなんです。

普段着使いにしたいのなら、TCブロードが一番だと思います！

塩素系漂白剤の使用はおさげ下さいね。

##### シーチング

TCブロードに比べシワが入りやすいですが、風合いが柔らかく、無地ならば色数も豊富で、値段もお手ごろです。

縫いやすく、初心者には扱いやすいです。

柄も沢山ありますよ。

やさしい雰囲気を作りたい場合はおすすめ

##### ツイル

中厚地の生地なので縫いやすいです。

カジュアルで上に重ね着するデザインにしたいときにどうぞ。